

## 令和元年度 幼稚園等初任者研修（公立第7回・私立第6回）報告

1月22日（水）、24日（金）、学校法人浜松平和学園 旭ヶ丘幼稚園、学校法人耕雲寺学園 耕雲寺幼稚園を会場に、初任者研修会が開催されました。

今回の研修は「保育参観やグループワークを通し、他園の幼児教育を知るとともに、初任者同士の交流を深める」、「一年間の研修を振り返るグループワークを通して、自分の取組における成果及び課題を明確にし、次年度の保育に向けて意欲をもつこと」を目標に行われました。本研修会には、県内の公立私立の幼稚園・認定こども園の初任者が参加しました。

会場の幼稚園の御協力のもと、園長先生の御挨拶や保育参観事前説明を伺った後、保育参観や講義、グループワークを通し、研修を深めました。



### 【全体会】



旭ヶ丘幼稚園長 三輪 功一先生



耕雲寺幼稚園長 武田 義正 先生

### 【保育参観】



（旭ヶ丘幼稚園）

園児の製作意欲を高める保育者の説明と  
興味をもって聞き入る園児



（耕雲寺幼稚園）

折り紙で動物を折り  
ペープサートづくりを楽しむ3歳児

## 保育参観についての感想

### (静岡)

- ・ 主に 1 クラスを参観したことで子どもの様子や教師の援助を深く見る事ができた。自分のクラスに置き換え、自分だったらどのようにするか考える事ができた。
- ・ 公立と私立の保育の違いについて自分の目で見て学ぶことができ、よかった。
- ・ どのクラスも主活動にカラーがあり、子どもも楽しんでいる様子が伺えた。

### (静岡)

- ・ 普段なかなか見ることができない私立園の保育の様子を見ることができ、参考となった。共通する部分や違いを多く見つけることができた。
- ・ 一つの活動を導入からじっくり見ることができ、流れや教師の声掛けなどについて学ぶことができた。
- ・ 子どもたちが主体的に活動を進めていた。やりたい気持ちが目に見えて分かった。

## 【講義】

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構副理事長であり、豊田学園豊田幼稚園長の宮下友美恵先生から、「まなざし」というテーマで、お話を伺いました。冒頭で、「あなたのこれまでの保育を振り返ってみましょう。色で表すとどんな色でしょうか。また、その理由は？」と初任者に問いかけ、先生の豊かな保育実践を基に保育者の役割について熱く語っていただきました。



## 初任者の感想

- ・ 子どもたちの行動や言葉、表情を確かに見取り、内面や育ちを理解することでまなざしも変化してくると思った。
- ・ 自分の保育を思い浮かべながら聞くことができた。目に見えるものから見えないものをつかむ力を付けていきたい。
- ・ まなざしは子どもに向けているだけでなく、自分にも向けられていることを心に留めていきたい。
- ・ 現在、指導要録を書いている中で子どもを見取る難しさを感じていた。その具体を分かりやすく伝えていただき

## 【グループワーク】



「1年を振り返って 成果と課題」



「保育参観から学んだこと」

## 1年を振り返って

### (初任者としての私の成長)

- ・初めは覚えることが多く、目の前のことでいっぱいいっぱい、分からないことが分からない状況だった。私が担任でいいのかという思いもあったが、保育をする中で感じた子どもたちの意欲や共に頑張ったことが心に残り、楽しさを感じるようになっていった。自分も子どもたちにも笑顔が増え、明るいクラスになってきていて喜びを感じる。
- ・年度当初は分からないことだらけで、本当にこれでいいのか、子どもたちのためになっているのだろうか不安や戸惑いが多かった。園内外の研修、園長先生や先輩の先生方からの指導を通し勉強する中で、次はこうしようという意欲が生まれてきた。
- ・初めは1日をこなすのに精一杯だったが、「これやってみたいな。」「こうしたら楽しくなりそう。」と考えられるようになり、いろいろなことにチャレンジできている。また、子どもたちと一緒に笑ったり不思議がったりと表情豊かになり、保育者として一日一日を楽しめるようになった。
- ・ただ環境を用意するのではなく、子どもたちの様子や表情、どんなことを楽しんでいたかなどをつかみ、環境を構成する大切さを学び、自分なりに実践するようになった。
- ・子どもたちに教えてもらい、共に成長を感じた1年だった。子どもたちの思いを受け止め育てていく仕事の大変さを知り、改めて保育は特別素敵な仕事だと感じた。
- ・私は、臨時、嘱託と経験し、知っていることもあったが、正規職員として勤めることはこんなに大変だとは思ってもいなかった。考えなければいけないことがたくさんあり、再確認することや知らなかったこと、改めないといけないことなど、本当に多くのことを学ばせていただいた。
- ・初めは「こうしなければいけない。」という思いが強く、活動に取り組みない子どもに対して焦りをもっていた。やってほしいという教師主体の保育になりがちだったが、「その子にとって今はその時じゃないから大丈夫。」というアドバイスをいただき、子どもがしたい遊びをどのように盛り上げていくかという考えに切り替え保育を進めるようになってきた。

### (こんな教師を目指したい)

- ・子ども主体の保育の実現のために、子どもの声に耳を傾け、思いに寄り添いながら遊びを進めていきたい。製作活動では、完成度を求めるのではなく、工夫したり試したりする気持ちを育むよう取り組んでいきたい。
- ・個々をじっくりと見て、気持ちや思いを受け止め、その子にあった援助を行い「〇〇先生だったら大丈夫。」と子どもからも保護者からも思ってもらえる教師になりたい。
- ・見通しをもつことに力を入れたい。今年1年を経験し、園の年間の流れが分かってきた。どの時期に何を準備するか、何をやっておけばよいか考え、効率よく進めていきたい。
- ・振り返ると、全体を見渡した保育に欠けていたと感じる。気になる子どもに関わるが多かったが、どの子にも目をかけ、一人一人の成長を見守っていきたい。また、できるようになったことや頑張ったことを認め、保護者や子どもたちと一緒に喜び合うことができるようにしていきたい。

